

自己評価報告書

平成23年 4月28日現在

機関番号：62501

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20720214

研究課題名（和文）

中近世における聖地の形成・展開・消失

研究課題名（英文）

The Transition of Sacred Places in the Middle Ages

研究代表者

村木 二郎 (MURAKI Jiro)

国立歴史民俗博物館・研究部・准教授

研究者番号：50321542

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：考古学

キーワード：歴史考古学

1. 研究計画の概要

中世になると、全国各地に信仰遺跡が急増する。中世前半に各地で簇出する信仰遺跡には、形成のあり方に一定のパターンがあると考えられる。経塚や石塔を、周辺遺跡と絡めながら調査することにより、そのモデルを描きたい。また、その後の遺跡の展開は、形成要因と大に関わると考えるため、継続的に展開する良好な遺跡を抽出し、集中的に調査をおこなうこととする。さらに、廃絶した信仰空間については、その消失原因も追究し、聖地の存在意義を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

経塚や中世前半に造られた石塔を中心に、新たに造り出された聖地とその周辺遺跡の総合的に調査を目指した。全国的にはそういった遺跡はまだ多く存在すると思われるが、本研究のみでそれらを網羅することは不可能なため、調査地を平泉周辺、伊豆半島、房総半島、国東半島などに絞って実施してきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

当初予定ではそれぞれの調査地での総合的な研究を目指したが、本研究ではテーマが大きすぎた。そのため方針を転換して、聖地を

形成するなかで重要な要素となる経塚や石塔を造営する生産の視点を取り入れることとした。聖地の形成だけでなく、展開を支えるシステムにも大きな影響を与えていることが分かってきたからである。

4. 今後の研究の推進方策

研究方針が少しずつ変わってくる中で、生産遺跡あるいは生産技術の研究に比重が傾いてきた。特に各地で進みつつある石丁場遺跡の研究あるいは中世の複合生産遺跡の発見は見逃せない。そこで、中世の生産関連にテーマを再設定して、本研究を発展的に継承していくこととする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

①村木二郎(編著)「特集・石の加工」『歴博』155、2009年、pp.1-32②村木二郎「房総の石塔にみる搬入品と在地品」『中世東アジアにおける技術の交流と移転』2010年、pp.97-106③村木二郎(編著)「特集・中世の生産技術」『歴博』160、2010年、pp.1-32④村木二郎「経塚出土銭からみた大銭の利用」『遠古登攀』2010年、pp.263-275

〔学会発表〕（計 3 件）

①村木二郎「都市領域と経塚」2010 年度中世都市研究会平泉大会、2010 年 9 月 5 日

②村木二郎「全国の経塚からみた堂ヶ谷」シンポジウム平安時代の祈りと願い、2010 年 10 月 3 日

③村木二郎「石と日本の近代化」第 2 回金谷石のまちシンポジウム、2010 年 10 月 24 日

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕